

産業保健スタッフの活動実態と、 労働衛生マネジメントシステム導入 における役割

主任研究者 大阪産業保健推進センター所長 酒井 國男
共同研究者 圓藤 吟史 金原 清之 大脇 多美代 清田 郁子

はじめに

- 現在、安全衛生管理体制の強化充実と安全衛生マネジメントシステム導入の進捗状況に鈍化傾向が認められる。
- 産業保健スタッフの兼務化が顕在している事と諸般の社会状況が、労働安全衛生マネジメントシステムが、企業内で安全衛生を実際に行う責任分担と情報の流れ方の円滑化の実践である事の目的を遂行できているかアンケート調査を実施した。

調査方法

- 対象 : 従業員300名以上の1317事業場
- 業種 : 製造業、サービス業、運輸・通信業、卸売小売・飲食業、建設業、金融保険業、その他
- 調査項目 : 1. 安全衛生スタッフの業種、2. アンケート回答者の職種と経験年数、3. 産業保健に関する時間、4. マネジメントシステム等に関する質問、5. 安全衛生の実績

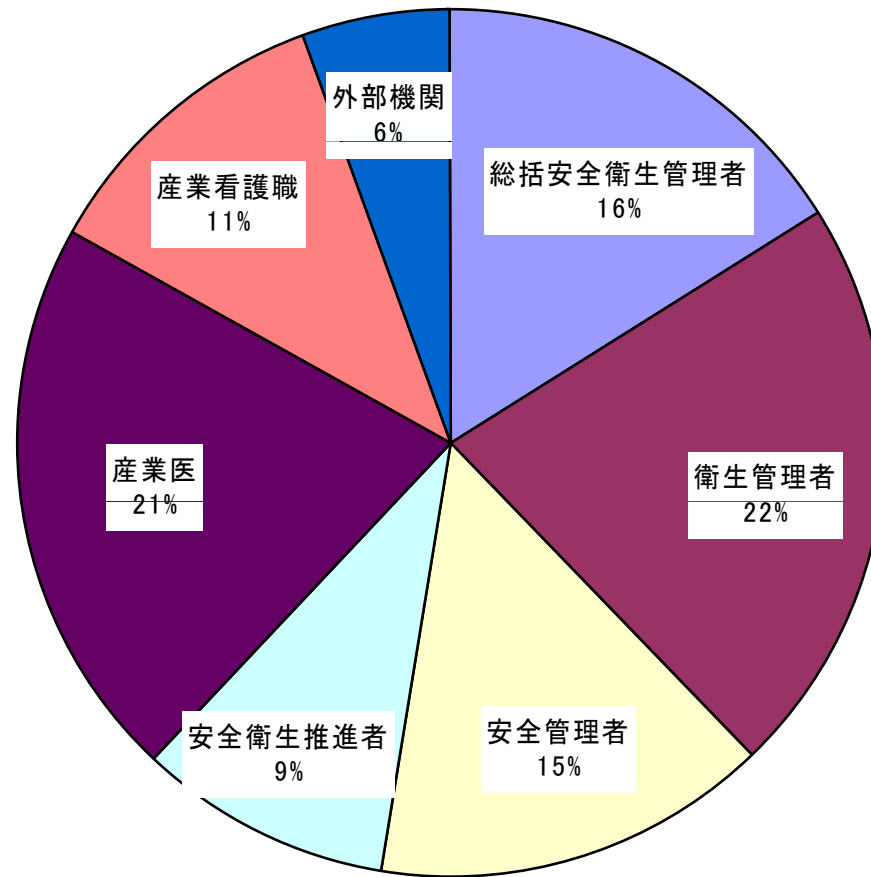
調査結果

従業員数300名以上の事業場を対象としたが、回答があった253事業場の内、300名未満の事業場が119事業場であった。

元になった資料のデータを収集した時点から現在までの間に見られた産業構造の変化に伴い、事業場規模が激しく変化した事が窺える。

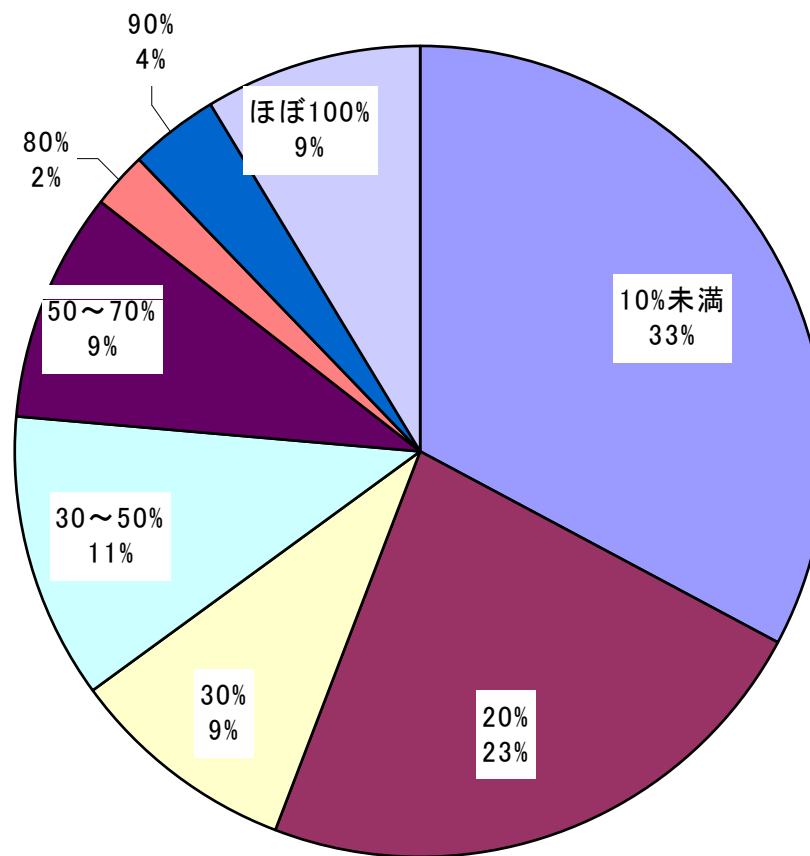
全産業

安全衛生スタッフの配置



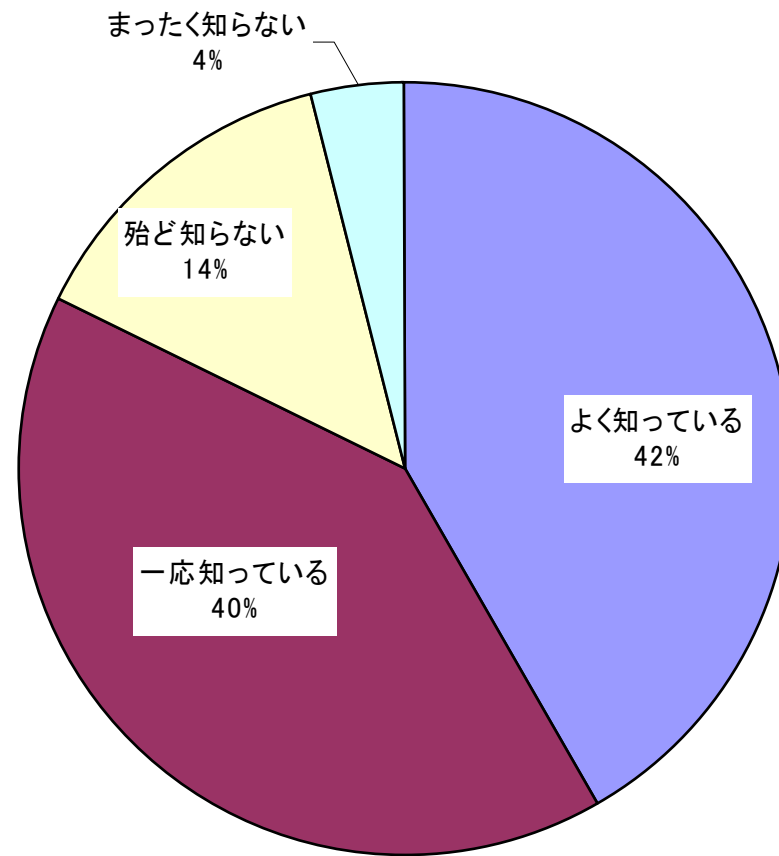
全産業

保健衛生に関する関与時間



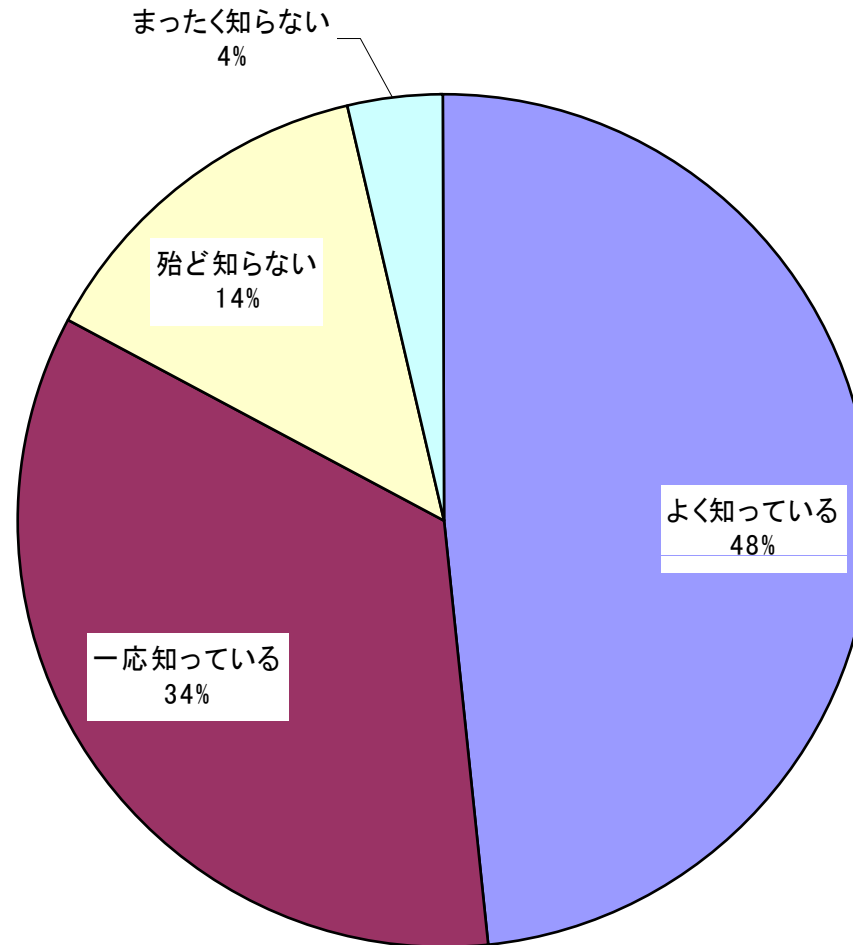
全産業

認知度 マネジメントシステム



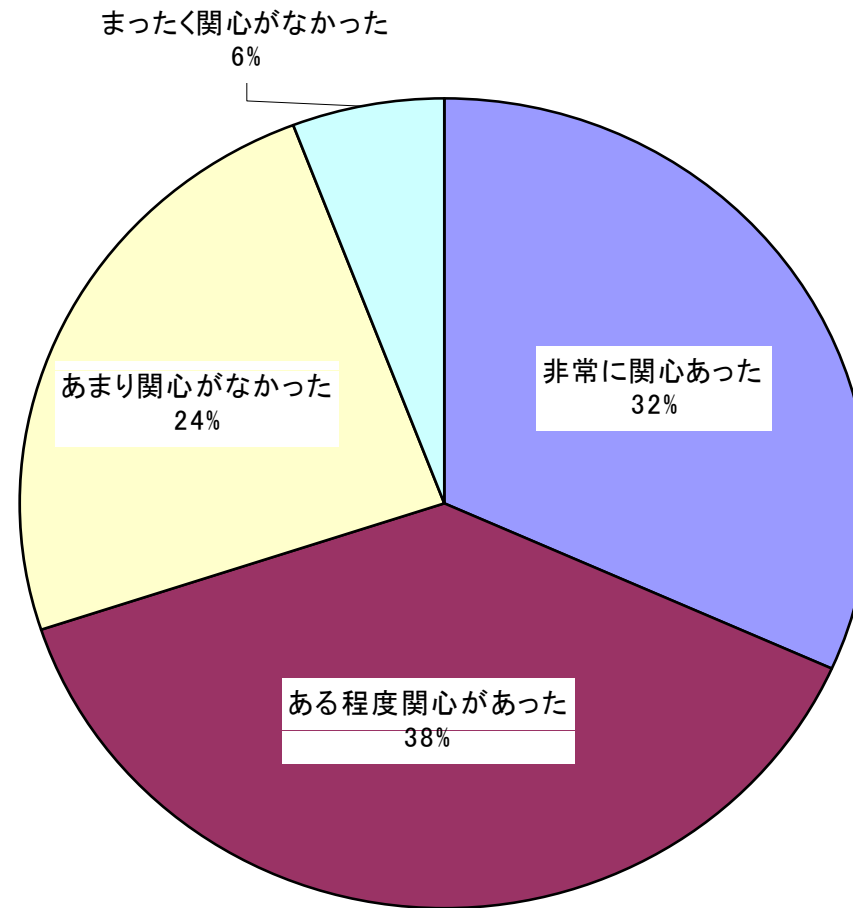
全産業

認知度 リスクアセスメント



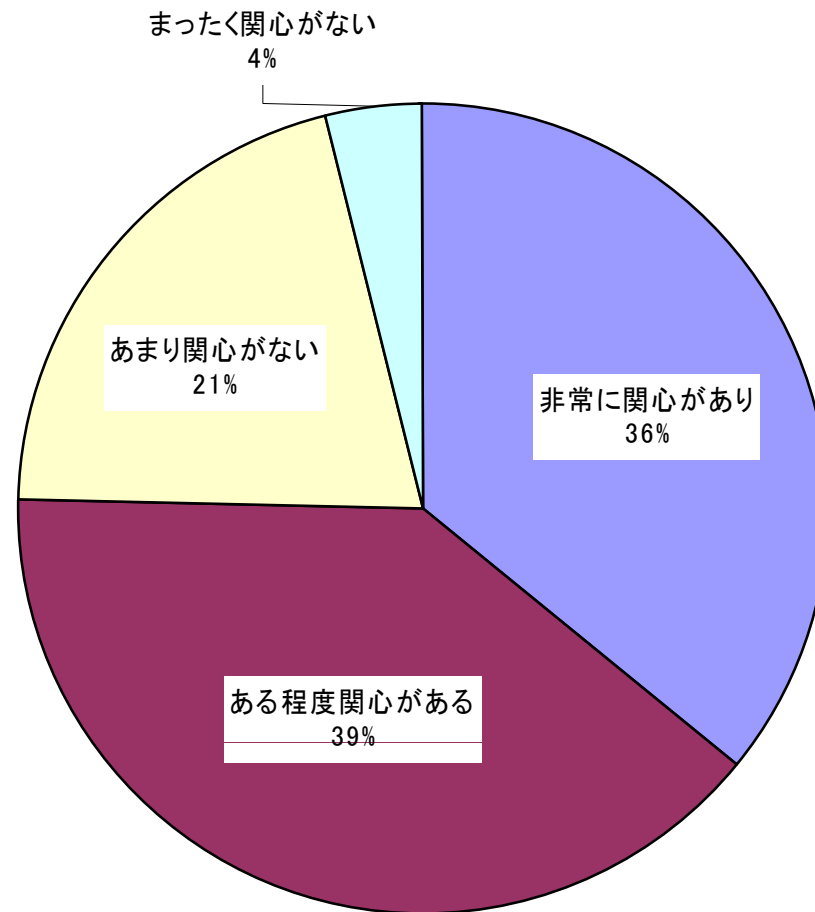
全産業

関心度



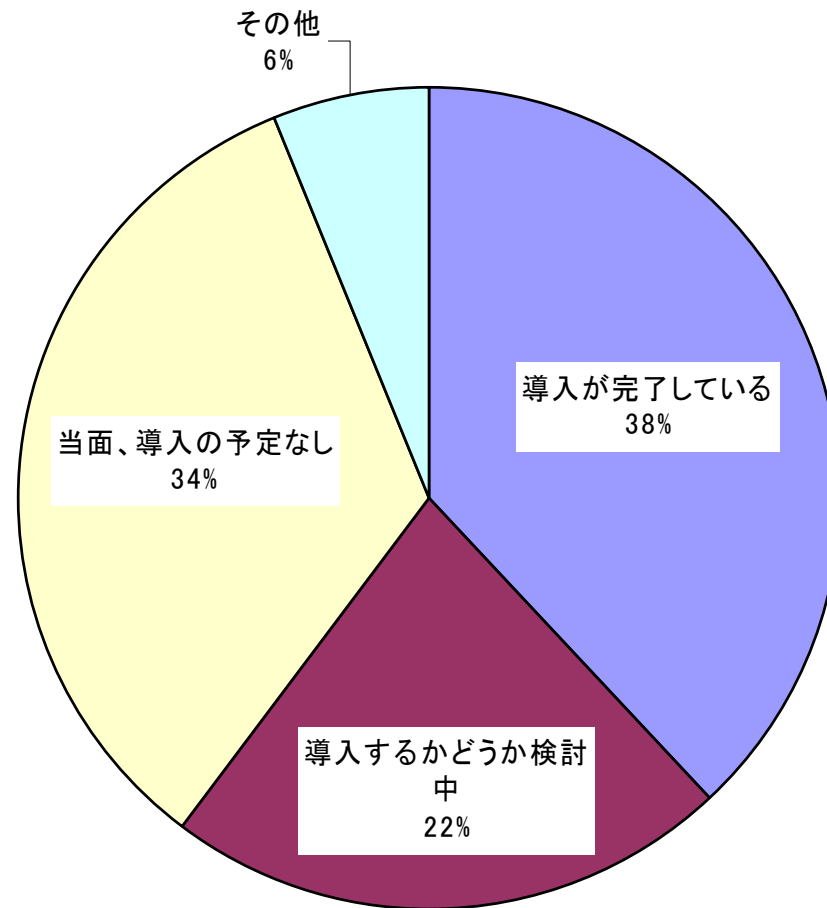
全産業

現在の関心の状況



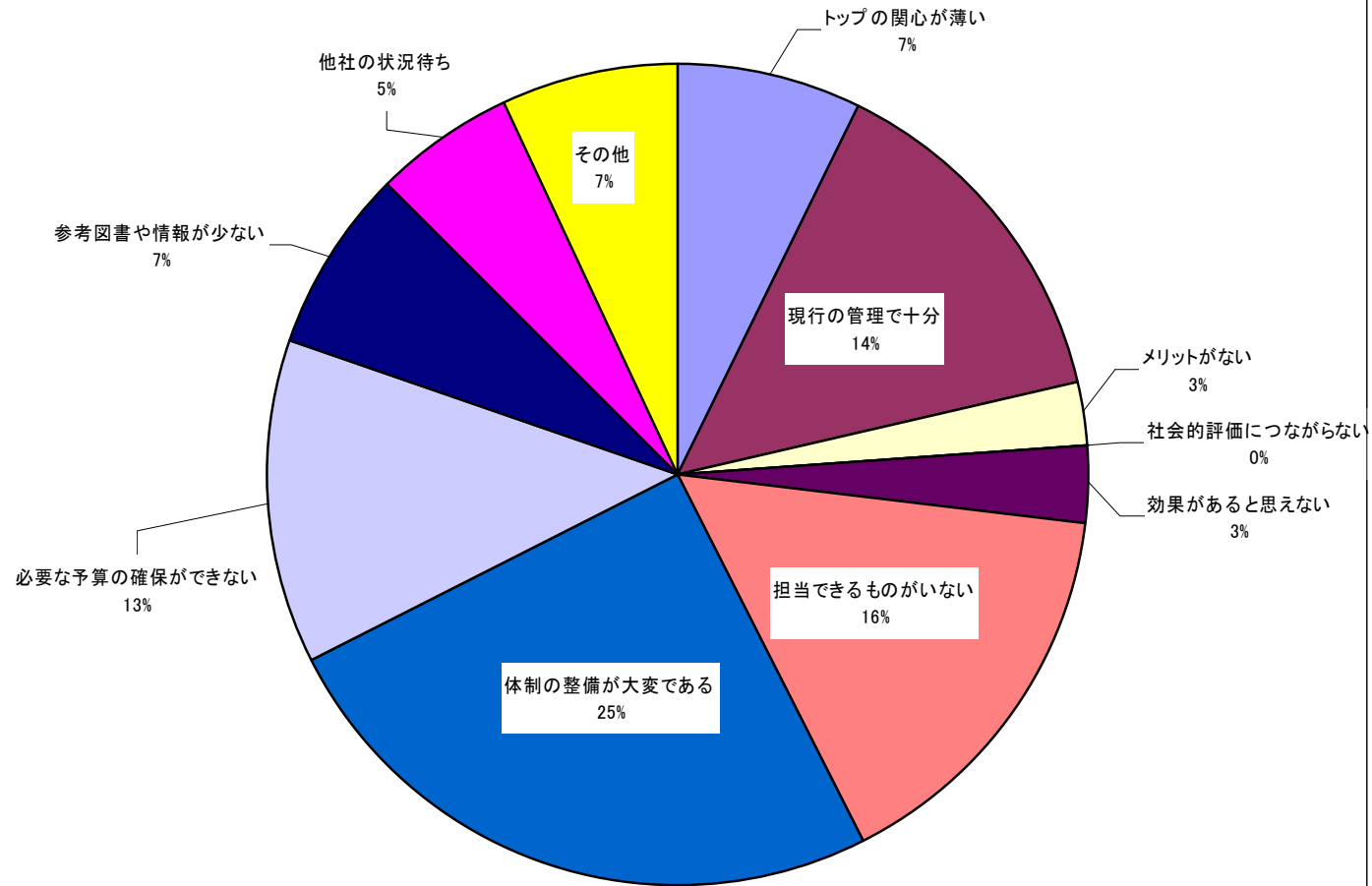
全産業

導入状況



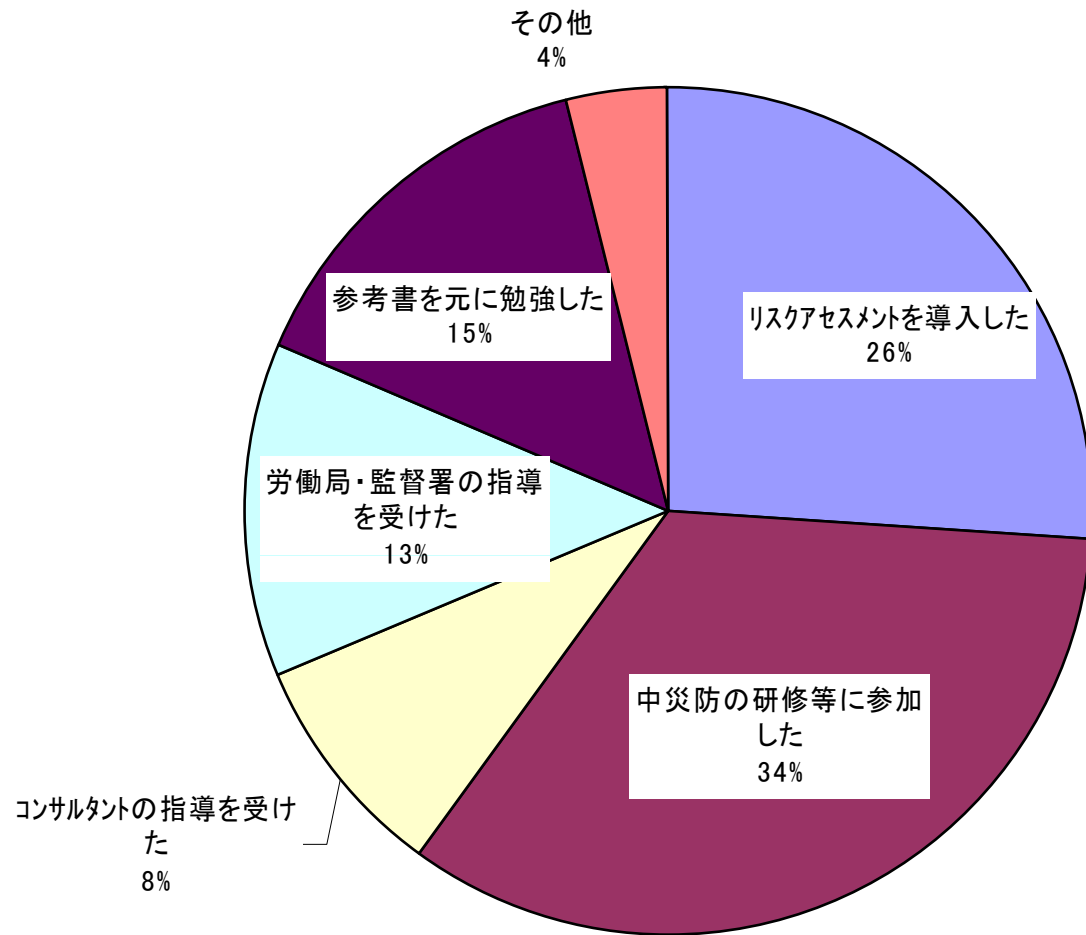
全産業

導入していない理由



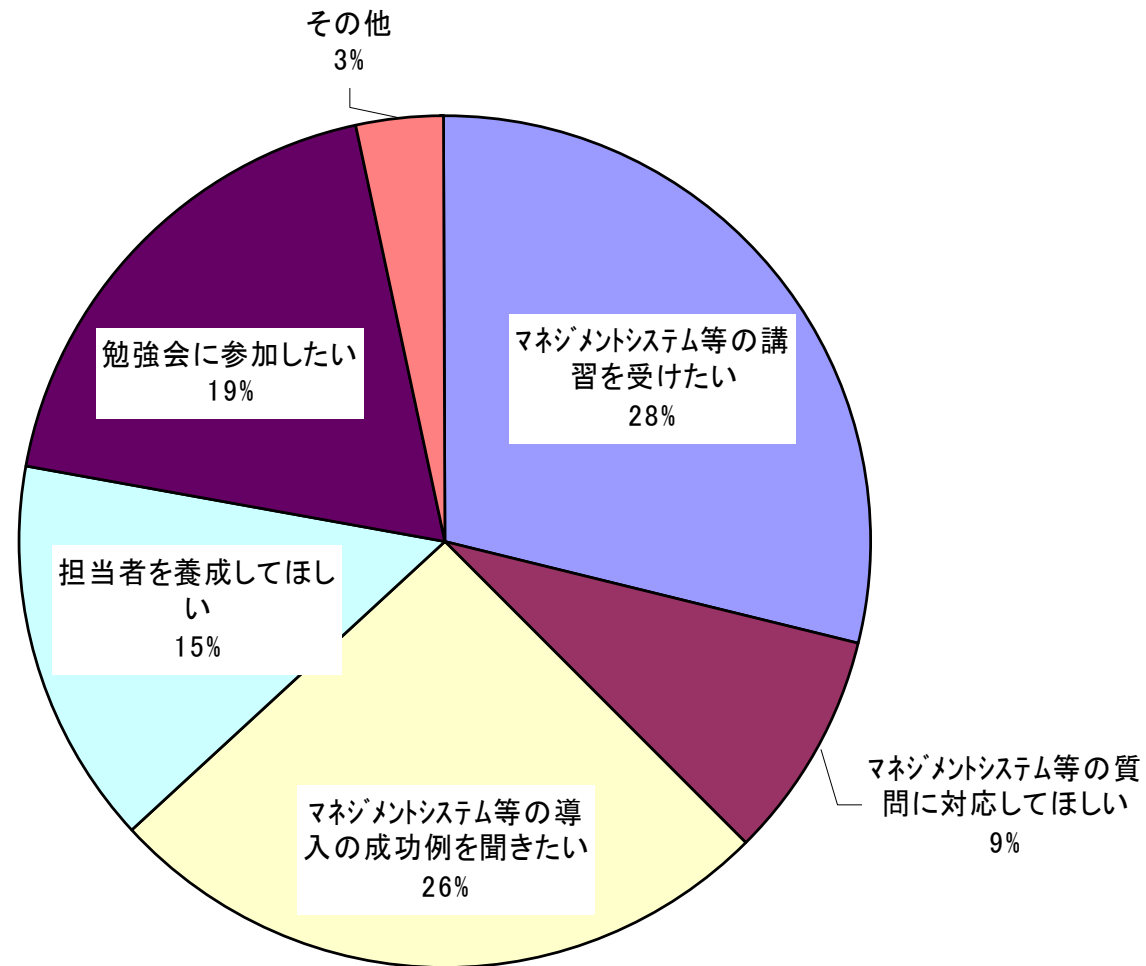
全産業

採用時の対策



全産業

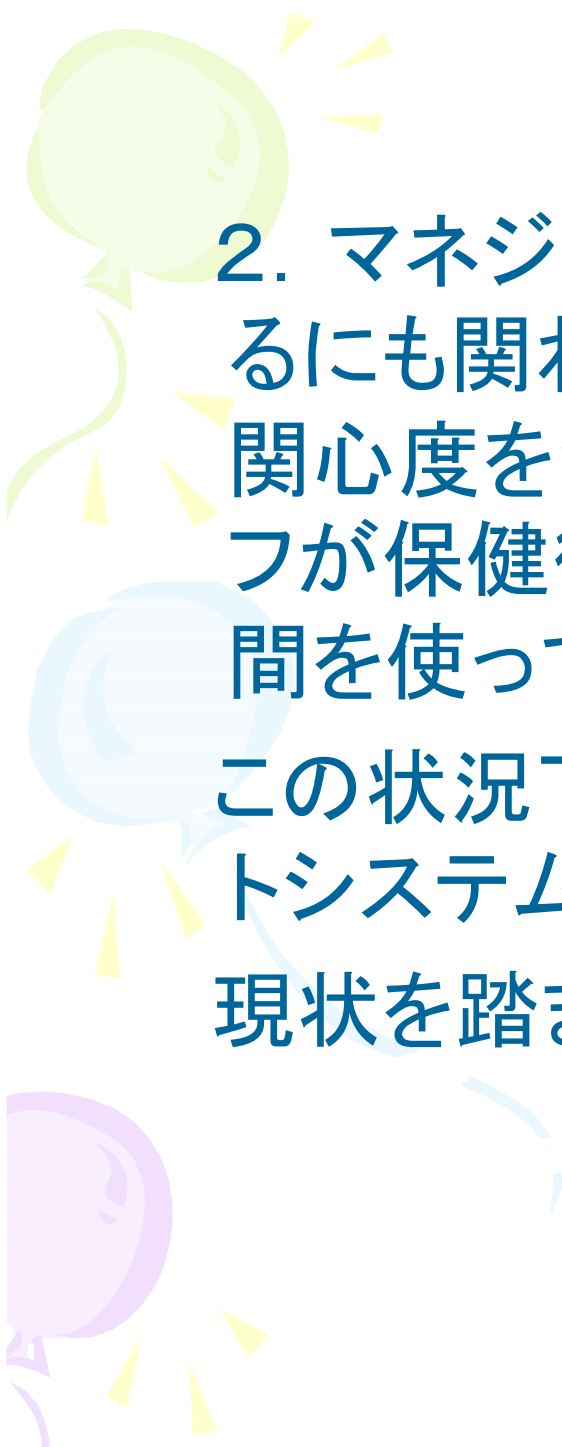
今後の導入に当たっての要望



まとめ

1. 全産業で見ると、マネジメントシステムとリスクマネジメントシステムの認知度は82%、関心度は70%ではあるが、導入が完了しているのは回答事業場の38%であった。

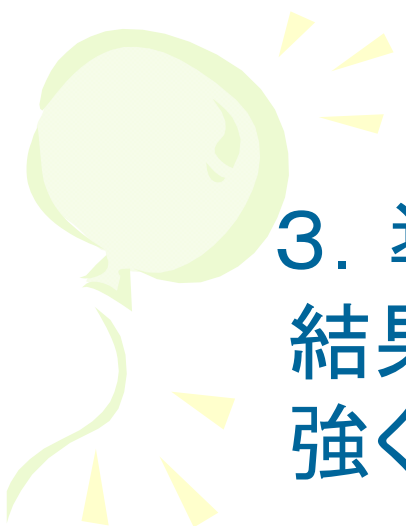
この結果の意味するところは、導入していない理由の、「体制整備が大変である」、「担当できる者がいない」「現行の管理で十分」、の回答に集約されているのではないかと思われる。



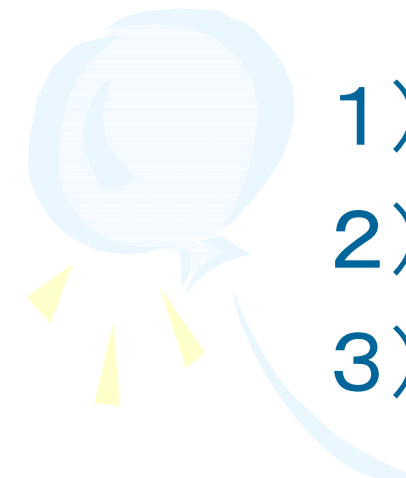
2. マネジメントシステムの認知度が82%あるにもかかわらず、関心度については25%が関心度を示さなかった事と、保健衛生スタッフが保健衛生以外の業務に55%以上の時間を使っている現状がある。

この状況下では、今後、安全衛生マネジメントシステムの導入が進みにくいと考える。

現状を踏まえて、次のような対策を考える。



3. 導入を促進する対策として、アンケート結果より以下の多面的な講習会の実施が強く望まれている。

- 
- 1) 具体的な課題の提示
 - 2) 双方向的な講習会の実施
 - 3) 1回完結型の講習会

